

2025（令和7）年度 第7回 高井戸小学校運営協議会 議事録

日時・場所： 2026（令和8）年2月20日（金）16:30～17:30・高井戸小学校校長室

参加者： 廣野、山田（事務局）

伊勢、鬼澤、下河、内藤、中島、和田（委員）

敬称略・所属・五十音順

欠席： 秋山、蘆塚、奥田、蕨南

議事録担当： 和田

配布資料： ● 次第

● 令和8年度教育課程について

● 動画「令和8年度教育課程編成に向けて」公開のお知らせ

以下、[] は発言者を表す。

1. 会長挨拶 [鬼澤]

150周年節目の年だったが、昨年度からの取り組みが10月の式典という形につながった。式典を通じて子どもたちが150周年の歴史に思いを馳せ、誇りと自信をもって大きく成長してくれたのが成果だと感じている。小学校が地域との信頼関係を深められた意義深い年度だった。教職員のみならず、実行委員のみならずが頑張ってくれたおかげ。感謝申し上げるとともに、この成果を来年度以降につなげていきたい。

2. 学校長より [伊勢]

- インフルエンザのため、複数クラスが学級閉鎖の状況にある。区内半数以上の学校で学級閉鎖が発生しており、収束が見えない。環境管理と健康管理に努めつつ、状況を見ていきたい。
- 6年生の卒業文集原稿全員分を読んだ。150周年に対する子どもたちの思いがよく綴られていた。保護者や地域の支えを得て、一体化した周年を過ごせたことに対する感謝が溢れていた。一般的に6年生は成長の大きい学年ではあるが、今年度6年生については例年にも増してメンタル的な成長が見られる。これが150周年の成果なのだと感じた。皆でひとつのものごとに取り組み達成するという経験が成長の貴重な糧となった。教務主任からも、これまでの教員人生で経験した周年のなかでいちばんよい周年だったという感想をもらえた。困難や苦労はあったが、やって良かったとつくづく感じた。みなさまに感謝を申し上げたい。

3. 協議・伝達事項

A. 令和8年度教育課程の承認について

- 令和8年度の教育課程について内容をご確認いただき、質疑や協議のうえ承認をいただければと思う [廣野]
- （配布資料『令和8年度教育課程について』の重点事項A～Eを各委員で読む）
- 次期学習指導要領を先取りするような方向性を教育課程に込めたいという思いがある。現在の教育のポジティブな面を維持強化しつつ、課題面に対応していく内容となっている。 [伊勢]
- 「A 児童が安心して学べる学校づくり」の生活指導において月目標の指導重点化が記載されているが、子どもたちが月目標の目的や意味価値を共通理解するための工夫としてはどのような実践が予定されているか。目的が適切に共有されないままルールが先行すると「C 誰一人取り残されない包摂的な学校づくり」とのバッティングが起きる可能性があるようにも感じられる。 [和田]
→ 全校に対しては、朝会で子どもたちに向け「安全安心に楽しく過ごせるように」というテーマで話をする。また、日常では教員からの問いかけを受けて、子どもたちが自分たちで考えあうようにする。子どもたちから生活目標に関する声が上がリ、校内で対話されることが大切だと考えている。

[伊勢]

- 月目標の背景を先生方が丁寧に子どもたちに説明する。キャラクターを介在させ、目的と目標が掲げる具体的な行為の橋渡しをする。低学年については「形から入る」という学び方もあるだろう。しかし、まずは「行動を通して心を安定させ、安全な生活につなげる」ことの意味を、先生が丁寧に子どもたちに説明していく。現在も、給食時間の放送テーマで月目標を扱うといった子どもたちの取り組みも見られている。[廣野]
- 毎年の清掃工場の見学でも、高井戸小の子どもたちは子どもらしい元気さを見せるが、いざ話が始まる時にはさっと聞く姿勢が変わる。日常の健全な生活指導の成果だと感じる [内藤]
- ざっと全体を読むと、どちらかという下次期学習指導要領が示す「個の深い学び」に力点が置かれているようにも感じる。共生を前提とした対話的で協働的な学びと「個の深い学び」を結びつける工夫としては、どのようなものが想定されているか。[和田]
- これまで数年間続けてきた対話的な学びへの取り組み成果は確実に出ており、その継続実践を大前提として、さらに個の主体性にフォーカスしていこうと考えている。[伊勢]
- 我が子の様子を見てみると、先生やクラスメイトが個人の意見や成果を褒めるだけではなく、その意見や成果を皆のものとして更新共有していこうとする授業のよさ（個と全体の行き交い）を実感している。[下河]
- 教育課程については、毎年の実践を反省し、その成果と課題の上に積み重ねられていくものだと思う。高小はレベルが高いと感じている。子どもたちの学び合いは、「全体の底上げ」と「個の伸び・深度」の両方に資する必要がある。教科学習においては、学びの格差が広がらないよう「全体の底上げ」を基盤として大切にしつつ、その上に探究的・協働的な学びが成立していくとよいと思う。[鬼澤]
- 令和 8 年度教育課程が委員によって承認された [全体]

B. 今年度の振り返り

- 3 校合同 CS の交流では、地域の同じ人々が、富士見小・中でも高井戸小でも支援を提供してくれていることがよく分かった。[廣野]
- 富士見中の CS 会長さんから「CS が自分たちで自らの存在意義・目的を考え、その目的を達成するためにどのようなことができるか（どのような権限を利用するか）を見極めて行動していくことが大事。目的達成に必要と思えば、会議回数を増やすことも職員会議に出ることもできる。反対に、年間定められた回数の会議に出席するだけで終わりにすることもできる。学校頼みではなく、自分たちができることを自分たちで知り、それを CS 内で引き継いでいけるとよい」と伺った。年度初めに、区から CS 規定文書を受け取るが、それ以外に「何ができる・権限として与えられている」を知るにはどうしたらよいただろうか。無駄に学校現場をかき回すようなことになるのは避けたいとも感じる。[和田]
- CS の協議の場で学校の状況と課題を共有しあい、各委員が必要と思うアイデアをテーブルの上に提示する。それらのアイデアと目的とを照らし合わせながら、テーブルについて全員で「CS にできること・やりたいこと」を都度確認判断していくのが望ましいのではないかと。8 回という会議回数は行政の謝金提供回数であり、必要に応じて手弁当の会議を行えばよい。今年度は実際に 150 周年実行委員会へ参加することで年間の協議回数が 8 回を大きく超えたが、それと同じだと考える [鬼澤]

4. その他

- 令和 8 年度 第 1 回学校運営協議会は 2026 年 4 月 3 日（金） 16:00～17:00
- 来年度の CS 開催スケジュールは、土曜授業になるべく合わせる方向で検討する予定。